

図書館員のおすすめ本

小学生

低学年（1・2年生向け）

『かこさとし おはなしえほん みずとはなんじゃ?』

かこさとし作／鈴木まもる絵



【内容紹介】

あさおきて、かおをあらうみず。うがいをしたり、のんだりするみず。みずとは、いったいどんなものなのでしょう？

暮らしの中で出会う水を通して水の不思議な性質を知り、自然環境に目を向けるきっかけとなるような、科学する心をはぐくむ絵本。かこさとしさんが手がけた最後の絵本。

【図書館員からのコメント】

皆さんが普段から飲んでいる「みず」。役割や大切さについて考えてみませんか。「みず」って、いったい何でしょう？

中学年（3・4年生向け）

『戦国合戦へタイムワープ』

歴史漫画タイムワープシリーズ 日本史BOOK』

トリルマンガ、チーム・ガリレオストーリー、河合 敦監修／朝日新聞出版



【内容紹介】

戦国時代にタイムワープしてしまった現代の小学生・リュウ、カノン、ジュン。しかし、3人とも別々の場所に落ちてしまい、敵味方に分かれて戦うことに……！激しい合戦をくぐり抜け3人は無事に出会うことができるのか？戦国時代にあった合戦をマンガでわかりやすく紹介。

【図書館員からのコメント】

絵も見やすくカラーで書いてあるので、とてもきれいです。歴史はとっつきにくいけど、漫画なら読んで見ようかなと思えるような本です。勉強の入り口や興味を持つきっかけになるとと思います。

高学年（5・6年生向け）

『いきものくらすための7つの約束』

今泉 忠明 著／講談社



【内容紹介】

『ざんねんないきもの事典』（高橋書店）の監修を務めた今泉忠明先生が身近ないきものや野生動物に対して、人間が抱きがちな誤解や思い込みについてくわしく教えてくれます。

【図書館員からのコメント】

いきものたちの行動の意味を人間の行動に置き換えてしまうことはありませんか。この本では、いきもの達の行動の本当の意味を知ることができます。ペットを飼う時のルールから、野生動物との向き合い方まで考えるきっかけになる一冊です。

中学生

『14歳の世渡り術 <萌えすぎて>絶対忘れない!妄想古文』

三宅 香帆著／河出書房新社



【内容紹介】

名作古典の見方を変えるとカップリングだらけの世界だった!?

伊勢物語や枕草子などの有名な古典作品を「カップリング=関係性の解釈」で妄想しながら読み解いていくと、濃密な人間関係が見えてきます。

古典の魅力を面白い切り口で紹介してくれる本です。

【図書館員からのコメント】

私自身、古典の授業はあまり得意ではなかったですが、物語を読み進めていくうちに、言葉としては書かれていないけれど、『もしかして……?』と考えることがありました。

この本はそんな『もしかして……?』という“萌えポイント”から古典の楽しみ方を教えてくれる本だと思います。

『中学生で出会っておきたい71の言葉』

覚 和歌子編／PHP研究所



【内容紹介】

勉強、部活の悩みや友達との人間関係など、多感な中学生の心にときに寄り添い、ときに励ます71の言葉。大切な時だからこそ、読んで感じてほしい言葉が6つのテーマで紹介されています。

【図書館員からのコメント】

偉人の言葉、詩、ことわざ、マンガのセリフや歌の歌詞など、様々なジャンルの言葉が収められています。中学生の皆さんの心に残り、いつか思い出す言葉が見つければいいなと思い選びました。編者のあとがきも印象的でとても素敵です。ぜひ最後まで読んでみてください。

『苦手から始める作文教室—文章が書けたらいいことはある?』

津村 貴久子著／筑摩書房



【内容紹介】

作文は書けないよりかけた方がいい。それはなぜ?作文でつまづく「テーマの決めかた」「書きだし」「伝わらなさ」「感想文を書く意味」から始まり「いい文章の正体」「誰も読まない作文はない」といった作文の本質を紹介。SNSよりおすすめします、書くことを通して自分や世界が見えてくる作文教室。

【図書館員からのコメント】

自分の気持ちを表現したり、思いや感想を書く。作文を書くことが苦手な人もいますが、作文を書いてみることで、「自分を知る手がかり」を発見することができるかもしれません。この本に、ヒントとコツが書かれています。